

# 講演会 ローラ・喜納のアートとトーク 「ウチナンチュのルーツを辿って」



*Canefield Workers* (サトウキビ畑の労働者たち) @ Laura Kina 30 x 45 in, 油絵, 2013.沖縄県立美術館所蔵

**日時：10月30日（日） 12：00-13：30**

**場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室**

所在地：〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号

那覇空港からモノレール利用 おもろまち駅 下車 徒歩10分

本島からバス利用 県立博物館前 下車 徒歩1分

**登壇者**

講演：ローラ・キナ（米国ドゥポール大学）（逐次通訳付き）

コメント：喜納育江（琉球大学国際地域創造学部）

司会：竹沢泰子（京都大学人文科学研究所）



主催：京都大学人文科学研究所 協力：琉球大学国際地域創造学部  
お問い合わせ：京都大学人文科学研究所 総務掛

TEL:075-753-6902（月～金9:00-17:00）

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp> メールアドレス：z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp

## ■プロフィール



### ローラ・喜納 (Laura Kina)

講演要旨: 沖縄訪問時に、「ファミリー・ヒストリー」をいかに発見したか、その後、ハワイでサトウキビ畑で移民労働者として働いていた家族や沖縄の文化・遺産についてどのような絵画を制作したか、作品画像とともに語ります。

アメリカ合衆国ドゥポール大学芸術学部教授。シカゴ在住。ミック  
スレイス・ウチナンチュ系四世。共著に *War Baby/Love Child: Mixed Race Asian American Art* (University of Washington Press, 2013), *Queering Contemporary Asian American Art* (University of Washington Press, 2017)。リー・タノウチの絵本 *Okinawan Princess: Da Legend of Hajichi Tattoos* (Bess Press, 2019)のイラスト担当。竹沢泰子と *Asian Diasporic Visual Cultures and the Americas*の特集号 *Trans-Pacific Japanese Diaspora Art*(2020) を共編。



### 喜納 育江 (きな いくえ)

那覇市首里生まれ。琉球大学国際地域創造学部教授。専門は  
アメリカ文学、ジェンダー研究。主な編著書に『沖縄・ハ  
ワイ コンタクトゾーンとしての島嶼』(彩流社、2010):『沖縄  
ジェンダー学』(大月書店 第1巻2014, 第2巻2015, 第3巻-  
2016)、単著に『<故郷>のトポロジー』(水声社、2011), な  
ど。



### 竹沢 泰子 (たけざわ やすこ)

京都大学人文科学研究所教授。専門は文化人類学、アメリカ研究。  
主な著作に『新装版 日系アメリカ人のエスニシティー強制収容と  
補償運動による変遷』(東京大学出版会, 2017);『環太平洋地域に  
おける移動と人種』(共編、京都大学学術出版会 2020);『人種主  
義と反人種主義』(共編、京都大学学術出版会 2022) など。